

Accuphase

STEREO CONTROL CENTER

model C-200X

ステレオ・プリアンプリファイヤー

取扱説明書



このたびはアキュフェーズ製品をお買上げいただきまして誠にありがとうございました。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで数多くの厳しいチェックを受け、その過程及び結果が一台ごとの製品の履歴書として明細に記録され、社内に保管されております。このように完全な品質管理体制の中から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。末長くご愛用下さいますようお願い申し上げます。

お 願 い

お客様カードを付属していますから、これに必要な事項をご記入のうえなるべく早く（お買上げ後10日以内に）ご返送ください。お客様カードと引きかえに品質保証書をお届け申し上げます。

製品に関するお問い合わせ、または異常が認められるときは弊社、品質保証課または、お求めの専門店へ、直ちにご連絡くださいますようお願い申し上げます。

目 次

特長	1
接続方法	2
ご使用前のご注意	3
各部の名称と動作説明	4
ご使用方法	9
ブロック・ダイアグラム	11
保証特性	12
特性グラフ	13

特長

■カスコード・ブートストラップ・ピュアコン・プッシュアップ回路を採用

イコライザー及びハイレベル・アンプ回路に「カスコード・ブートストラップ・プッシュアップ差動回路」を採用し、優れた高域特性と同時に、入力インピーダンスの変化に伴うひずみ率の悪化を防ぎ、極限の諸特性と安定性を確保しています。

■新DCサーボ方式

サーボ系のノイズが信号系へ与える影響を最小限におさえ、DCドリフト制御能力に優れた新しいDCサーボ回路により、DISC（MMカートリッジ）入力から出力までが直結されています。これにより一段と良質でカラレーションのない音質を得ています。

■RET A級ピュア・コンプリメンタリー・プッシュアップ構成のヘッド・アンプ

差動プッシュアップ入力回路とRET（Ring Emitter Transistor）ピュア・コンプリメンタリーの出力回路で構成し、音質に影響を与える入力コンデンサーを取り去った直結方式です。透明度の高いディテールの表現力に優れた再生音が得られます。

3系統のDISC入力端子に対してスイッチでON-OFFができますので、一本のトーン・アームでMC、MMカートリッジを差し替えて使用するとき威力を発揮します。

■強力電源——マルチプル・パワー・サプライ

ヘッド・アンプ、イコライザー・アンプ、ハイレベル・アンプの左右チャンネル合計6ヶ所にRETとICによる独立定電圧電源を配置する「マルチプル・パワー・サプライ」方式を採用し、増幅段間や各ユニット・アンプ間の干渉を皆無にした理想電源を実現しています。特に低域の再生音が充実し、音像定位も一段と改善されています。

■マザー・ボード方式の採用で高安定性を実現

ガラス・エポキシ樹脂のマザー・ボードに各ユニット・アンプをプラグイン・ソケットで結合し、電源トランスや整流器、フィルター・コンデンサー、そしてフロント・パネルのプッシュ・スイッチなどがマウントされています。

各部分はプリント・サーキット化された導体経路で結ばれており、ワイヤー配線で起こりがちな特性のみだれを防

ぎ、均一で安定な性能を期待することができます。

■A級、DC構成ピュアコン直結ヘッドホン・アンプ

ヘッドホンで音質チェックができるように、DC構成A級ピュアコン直結専用アンプを設け、高いフィデリティを確保しております。

■幅広い変化特性をもつトーン・コントロール

微細な音質補正ができるように低音、高音ともにターンオーバー周波数を切り替えてご使用になれます。左右チャンネル独立型、11接点ロータリー・スイッチによる2dBステップ式でターンオーバー周波数は低音が200Hz、500Hzで高音は2kHz、7kHzを選ぶことができます。更に小音量再生時の低・高音域の量感不足を補正するラウドネス・コンペンセーター・スイッチを設けました。再生レベルやリスニング・ルームの特性に応じて2種類のカーブを選ぶことができます。

■音質劣化を最小限に抑えて、ノイズを最大限にカットするサブソニック、ハイ・フィルター

超低域ノイズによる混変調ひずみを防ぐためにサブソニック・ノイズを除去する17Hz / 12dB / octのサブソニック・フィルターと高域成分の減少を最小限に、効果的にノイズをカットする8kHz / 12dB / octのハイ・フィルターを設けました。

■3台のテープレコーダー接続可能、独立したテープ・コピー・スイッチ

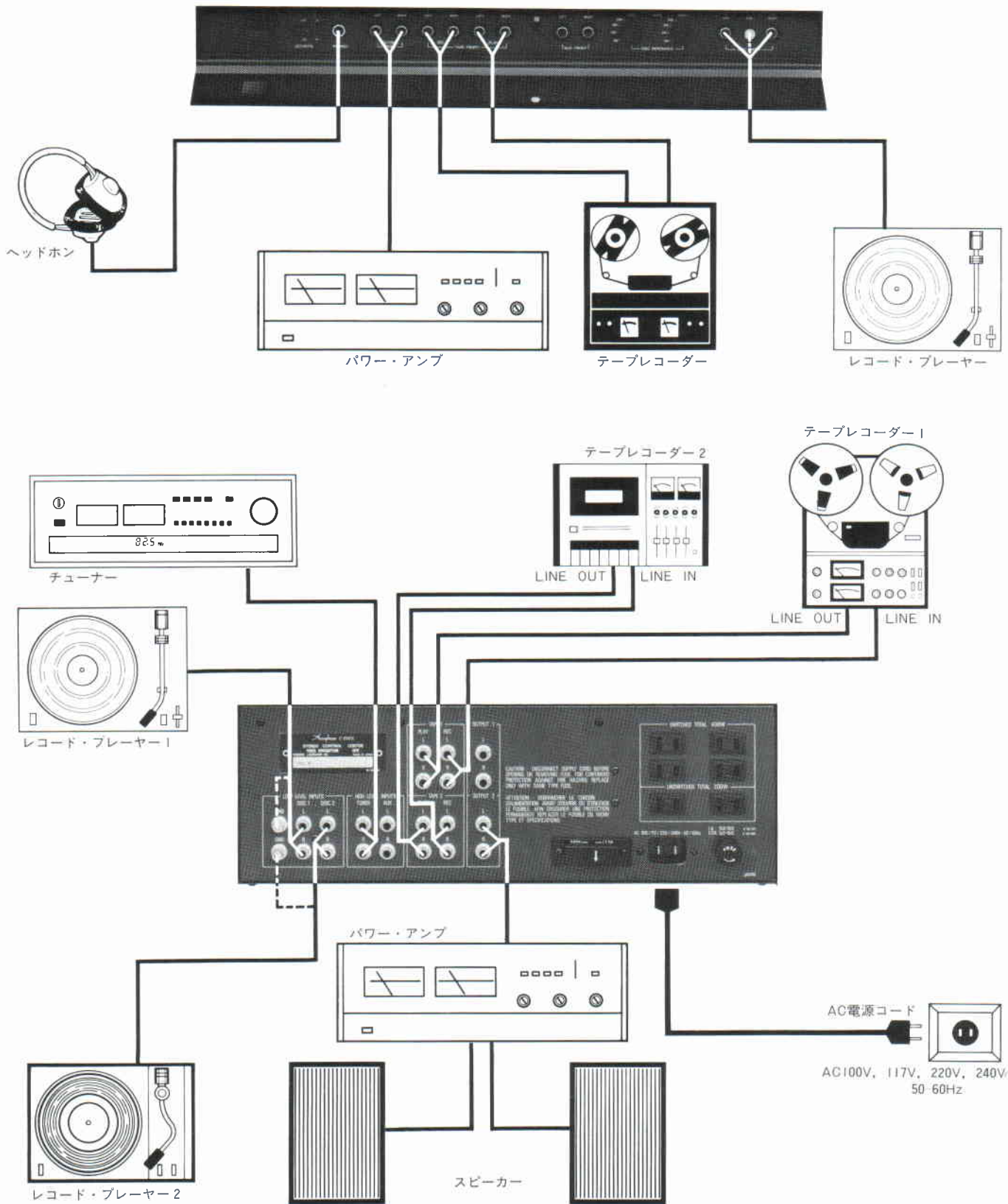
3台のテープレコーダーが接続でき、このうち2台で相互ダビングが、他のプログラム・ソースを聞きながら独立して、可能です。

■フロント・ディスク入力など豊富な入・出力端子

プログラム・ソースの多様化と、いろいろな音響機器のテストにも便利のように合計9系統の入力端子、7系統の出力端子を備えています。特にフロント・ディスク入力はレコード・プレーヤーのテストにも便利なものです。

表紙の写真はオプション・パーツのローズウッドキャビネット A-8型に収納したものです。

接続方法



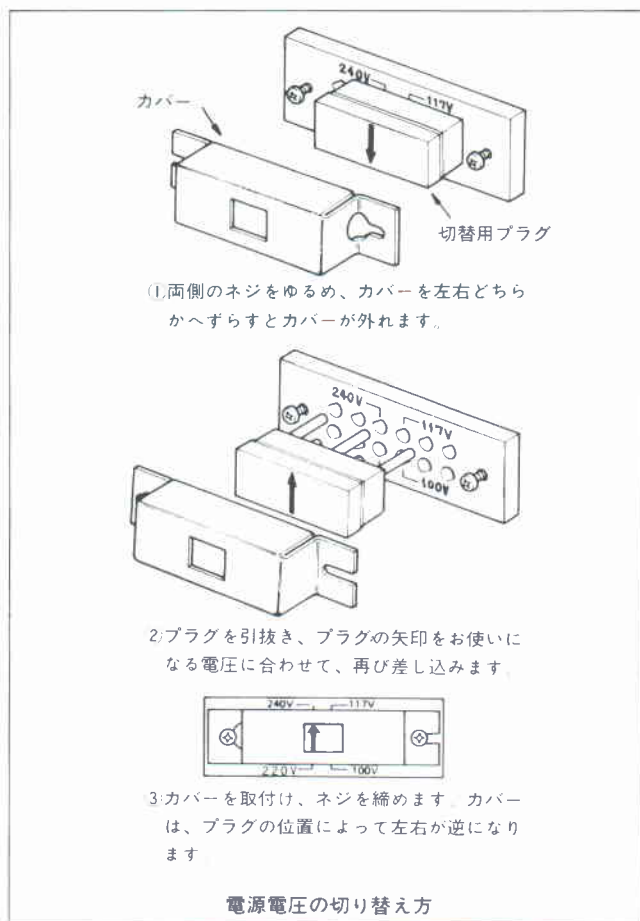
ご使用前のご注意

■AC電源について

電源電圧が90V以下または110Vを越えている場合は、スライダックなどで規定の100Vにしてください。電源電圧の異なる地域でご使用の場合は下記の“電源電圧の切り替えについて”を参照してください。

■電源電圧の切り替えについて

リア・パネルの電源電圧切替プラグを固定している金具を外し、プラグを引き抜いて、プラグ頭部の矢印を目的の電圧値に合わせて差し込み、再び金具を取り付けてください。



■電源ヒューズの交換

ヒューズの交換は、ヒューズ・ホルダーの中央をプラス・ドライバーで矢印の方向へまわせば中のヒューズを交換することができます。

電源ヒューズは電源電圧により定格が変わります。本機のヒューズは 100V/117V のとき、スロー・ブロー(SLOW-BLOW)タイプ1A、220V/240Vのときは、スロー・プロ

ー(SLOW-BLOW)タイプ0.5Aとなっています。ヒューズは特に原因がなくても切れることがあります。電源電圧の変更や、ヒューズが切れて電源が入らなくなったときには、お求めの専門店、または弊社の品質保証課までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

■発熱と使用上のご注意

本機の回路は電力増幅用トランジスターを多用し、全段がA級ドライブになっていますので多量の発熱があり、ケース上面をさわりますと、かなりあつく感じますが、動作、耐久性には全く支障はありません。オプション・パーツのA-8型ウッド・キャビネットに組み込んだときにも、本機の放熱効果には十分な配慮がなされておりますが、狭くて通風の悪い場所への設置はさけてください。また、直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くへの設置もさけるようにしてください。

■パワー・アンプや他の機器と直接かさねて設置しないようにしてください

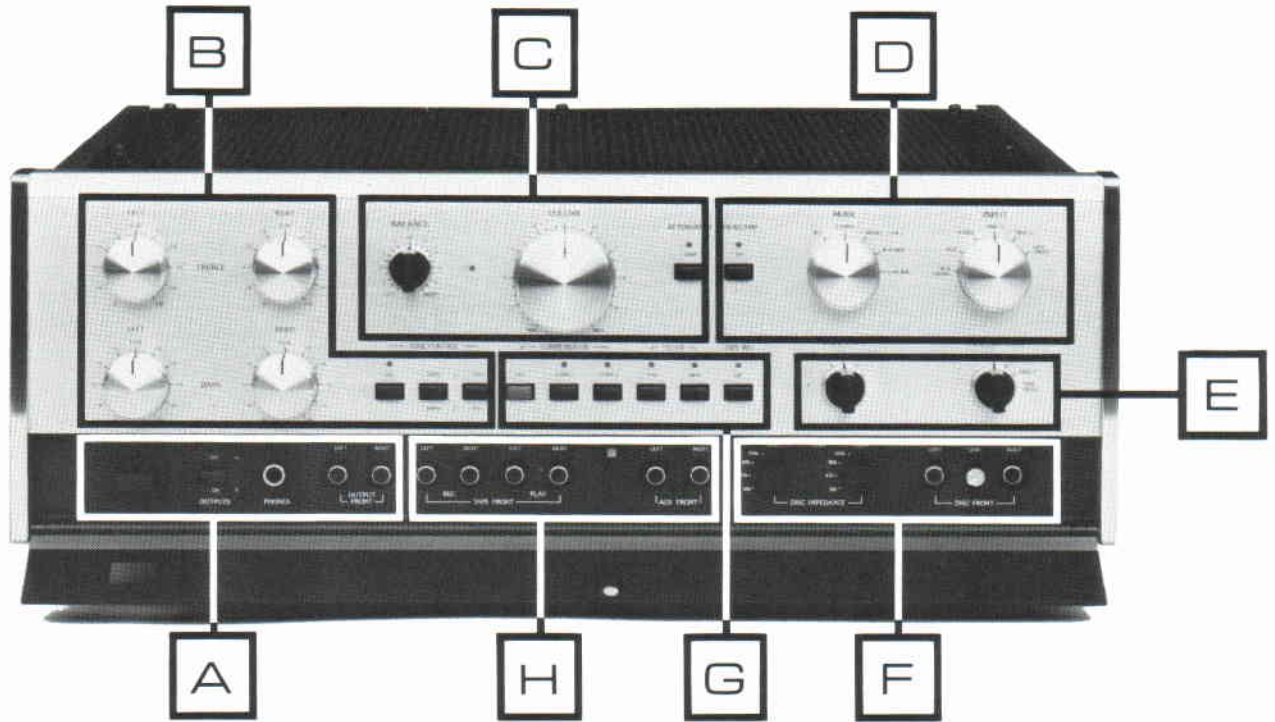
本機はMCカートリッジ用のヘッド・アンプを内蔵したハイゲイン・プリアンプのために、パワー・アンプや他の機器の漏洩磁束により電磁誘導を受けてハム音(ブーンという音)がスピーカーから聞こえることがありますので、パワー・アンプや他の機器と直接重ねないようにしてください。機器間の距離は10cm以上はなすようにし、ラックなどに入れて使うときには、パワー・アンプの放熱についても十分な配慮をしてください。

■入出力コード(シールド・コード)を抜き差しする場合は、必ず電源を切ってから行ってください

RCAタイプのピンプラグ(通常のオーディオ機器に使用されているもの)を端子から抜き差しするときは、(+側、(-側)ともに同時に入ったり切れたりせず、(+側)が先に入ったり、残ったりする構造のため、一瞬(-側)が浮いた状態になって大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因になります。

各機器間の入出力コードを抜き差しするときは、必ず電源スイッチを切ってからにしてください。

各部の名称と動作説明



A POWER OUTPUTS PHONES OUTPUT FRONT

POWER——電源スイッチ

押し込んだ状態で電源が入り、再び押しと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで、約 3.5 秒間はミュート回路が動作していますので出力はありません。

OUTPUTS——出力ON/OFFスイッチ

このスイッチを押して“OFF”にしますと、リア・パネルの□OUTPUT 及びサブパネルの▣OUTPUT FRONT の出力が切れます。

PHONES——ヘッドホン・出力ジャック

ステレオ・ヘッドホンで聞くときに、このジャックにヘッドホンのプラグを差し込んでください。入力インピーダンス 4 ~ 32Ω のヘッドホンをご使用ください。ヘッドホン・プラグを差し込んでも本機の 3 系統の出力端子の信号は切れませんので、ヘッドホンだけで聞くときは、▣OUTPUTS スイッチで出力を切るか、パワー・アンプの出力を切ってください。

OUTPUT FRONT——フロント側・出力端子

リア・パネル側□OUTPUT と同じように、本機の出力を取り出せます。

B BASS/TREBLE TONE CONTROL

BASS——低音トーン・コントロール・スイッチ

TONE CONTROL スイッチを押して ON にしたときに動作し、中点 (FLAT) より右へまわすと低音増強、左へまわすと減衰します。2dB ステップ式で LEFT (左), RIGHT (右) チャンネルが単独で調整できるようになっており、ターンオーバー周波数を 200Hz にしたとき、35Hz で ±10dB、500Hz にしたときには、100Hz で ±10dB の変化が得られます。

TREBLE——高音トーン・コントロール・スイッチ

このスイッチは高音域の調整用で、BASS と同じく 2dB ステップ式になっています。ターンオーバー周波数を 2 kHz にしたとき、10kHz で ±10dB、7kHz にしたときは、35kHz で ±10dB の変化が得られます。

TONE CONTROL——ターンオーバー周波数切替スイッチ

BASS/TREBLEのターンオーバー周波数を切り替えるスイッチです。左端のプッシュ・スイッチはトーン・コントロール回路の ON/OFF スイッチで、押し込んだ状態で ON、再び押すと手前に出て OFF となり、BASS/TREBLE スイッチがどの位置にあってもフラットな特性が得られません。

右の二つのプッシュ・スイッチが BASS、TREBLE のターンオーバー切替スイッチで、それぞれを押し込んだとき、200Hz と 7kHz のターンオーバー周波数になり、再び押すと手前に出て、500Hz と 2kHz になります。



BALANCE VOLUME ATTENUATOR

BALANCE——バランス調整

右へまわすと左側の音が小さくなり、左へまわすと右側の音が小さくなります。ステレオ再生時の左右チャンネルの音量バランス調整に使います。

VOLUME——音量調整

右へまわすと音量が増大します。レコードをかけた時、プログラム・ソースを選択したり、電源を切るときなどは、この VOLUME を下げるように習慣づけましょう。

ATTENUATOR——アッテネーター

このスイッチを押したときに“ON”となり出力レベルが 20dB 減衰します。ボリュームを一定のレベルに上げておいて比較試聴をするときなどのレコードの頭出しに便利です。また瞬時にレベルを下げるときにも有効です。プッシュ・スイッチが押されているときには上の LED (発光ダイオード) が点灯します。



HEAD AMP MODE INPUT

HEAD AMP——ヘッド・アンプ ON/OFF スイッチ

MC 型カートリッジをご使用のときは、このスイッチを押して“ON”にしてください。右にある入力セクター・スイッチにより DISC 1、DISC 2、DISC FRONT いずれのときにもヘッド・アンプを動作させることができます。再び押すと手前に出て OFF となります。このスイッチは“OFF”から“ON”にするとき、その逆のときにも約 2 秒間ミュート回路が動作しますので音は出ません。

HEAD AMP 回路が ON になったとき、プッシュ・スイッチの上の LED が点灯します。

高出力型 (普通の MM 型など) カートリッジを使用中に、あやまって ON にしますと音量が急に大きくなり、高域の出ないバランスのくずれた音になりますので注意してください。

MODE——モード切替スイッチ

《STEREO》通常のステレオ再生のときには、スイッチをこの位置にしておいてください。

《REV》ステレオの左右チャンネルを入れ替えた状態の再生ができます。

《MONO (L+R)》左右チャンネルが完全にミックスされますので、両方のスピーカーには、まったく同じ信号が入力され、スピーカーの中央で聞くとき音像は中央に定位します。

《R→L & R》両方のスピーカーから、右チャンネルの音だけが出てきます。

《L→L & R》上とは反対に、両方のスピーカーから、左チャンネルの音だけが出てきます。

INPUT——入力セクター

DISC 1 / DISC 2 / DISC FRONT——ディスク入力セクター

リア・パネルの DISC 1、DISC 2 及びサブパネルの DISC FRONT に入力したレコード・プレーヤーをそれぞれのポジションで選択してください。

入力セクターで DISC、TUNER、AUX の各ポジションへ切り替えたときには、約 2 秒間ミュート回路が動作しますので、その間は出力がなくなります。

TUNER——チューナー・セクター

リア・パネルの TUNER に入力したチューナーをこのポジションで選択してください。

チューナーへ切り替えたときの音量がレコード再生のときの音量と VOLUME の位置が同じで、差があるときには、チューナーのレベル・コントロールで音量が同じになるように合わせておくと使い易くなります。

AUX / AUX FRONT——予備入力セクター

リア・パネルの AUX 及びサブパネルの AUX FRONT に入力したチューナーとかテープレコーダー等をこれらのポジションで選択してください。

入力セクターでプログラム・ソースを選択するときは、必ず VOLUME を下げてから行なうように習慣づけてくだ

さい。

また、本機のTUNER及びAUXの定格入力（定格出力に要する入力電圧）は126mVです。



TAPE MONITOR TAPE COPY

TAPE MONITOR——テープ・モニター・スイッチ

“SOURCE”の位置ではTAPE PLAY端子以外の入力端子からの入力信号を再生することができます。したがってテープ再生以外のときには、必ずこのスイッチを“SOURCE”の位置にしておいてください。

テープ再生をするときには、リア・パネルの☒TAPE1、TAPE2及びサブパネルの☒TAPE FRONT、それぞれの端子に接続したテープレコーダーをこのスイッチで選択してお聞きください。

プログラム・ソースを録音するときには☒TAPE RECスイッチを押して“ON”にしてください。

レコーディングをしているときは、“SOURCE”でプログラム・ソースのチェック、TAPE1、TAPE2またはTAPE FRONTへ切り替えることにより、録音されたテープのモニターが録音しながらできます（3ヘッド・テープレコーダーの場合のみ）。また、レコーディング中に☒の入力セレクターやHEAD AMPスイッチを操作しますと、リア・パネル及びサブパネルのREC端子、OUTPUT端子はミュート回路が動作しますので、約2秒間出力が切れます。

TAPE COPY——テープ・コピー・スイッチ

テープレコーダーを2台使ってテープのコピーをするときにこのスイッチを使います。リア・パネル☒のTAPE1に接続したテープレコーダーをマスターにしてTAPE2のテープレコーダーでコピーをする場合は“1→2”の位置にします。TAPE2からTAPE1へのコピーは逆になり“2→1”にします。

テープレコーダー相互間でコピーをするときには☒TAPE RECスイッチは無関係です。

コピーをしているときにTAPE MONITORスイッチを“SOURCE”にしておけば、他のプログラム・ソースを聞きながら、全く独立してコピーを続行することができますし、☒の入力セレクターを切り替えたときに動作するミュートによる音切れの影響も受けません。

また、“1→2”でコピーをしているときにTAPE MONITORスイッチを“TAPE1”にすればTAPE1の再生状態の確認、“TAPE2”にすればコピーされたテープをモニターしながらのコピーができます。TAPE2からTAPE1へのコピーのときも同じ要領です。



DISC FRONT DISC IMPEDANCE

DISC FRONT——フロント側・レコード・プレーヤー入力端子

レコード・プレーヤーの出力を本機の前面から入力して使用できる大変便利な入力端子です。レコード・プレーヤーの出力コードを差してください。中央にあるGND端子は、レコード・プレーヤーのアース端子として使い、LEFT(左)、RIGHT(右)の出力コードといっしょに出ているアース線を接続してください。

《レコード・プレーヤーのアース接続について》

1台のレコード・プレーヤーに2本のトーン・アームがついているときに、一方をリア・パネル側の入力端子、もう一方をフロント側の入力端子へ入力した場合にハム音が発生したり、異常発振を起こすようなときは、2本のトーン・アームが共通アースになっていますので、一方のアース線をGND端子から外してご使用ください。

独立したレコード・プレーヤーを2台使うときや、トーン・アームが共通アースになっていない場合は、それぞれのGND端子にアース線を接続してください。

DISC IMPEDANCE——入力インピーダンス・セレクター・スイッチ

DISC1とDISC FRONTに接続したレコード・プレーヤーのカートリッジの負荷インピーダンスに合わせてください。このセレクターは、HEAD AMPがOFFのときのみ有効でONのときには100Ωになり、このセレクターはどの位置にあっても無関係になります。通常の高出力型（普通のMM型など）カートリッジを使用するときには47kΩが標準です。カートリッジの推奨負荷インピーダンスと本機の四種類のインピーダンスが合わないときには最も近いインピーダンス値に合わせてください。また、MCカートリッジでも出力電圧の大きいものはHEAD AMPを通さなくても使用できますが、必ず100Ωにしてご使用ください。高い負荷インピーダンスにすると、カートリッジによって

はノイズを発生する場合があります。したがって HEAD AMPをOFFにしてMCカートリッジを使うときは、DISC 2 以外の入力端子を使ってください。なお普通のMM型、IM型の高出力カートリッジを100Ωポジションで使用しますと、音量が極端に低下するとともに、高音部の減衰したこもりがちな音質になりますので注意してください。



COMPENSATOR SUBSONIC FILTER HIGH FILTER TAPE REC

COMPENSATOR——量感補償スイッチ

小音量でお聞きになる場合に聴感上のエネルギー・バランスを調整するスイッチです。

人間の聴感特性はボリュームを下げたときには、その音量により低音感が不足してきたり、低音、高音共に不足して聞こえてきます。この不足分の量感を補うためにはこのスイッチが大変有効です。COMP 1では100Hzで+3dB、COMP 2では100Hzで+10dB、高音域を20kHzで+5dB増強します。押したときにONとなり上のLEDが点灯します。この増強する量はVOLUMEを-30dBまで下げたときの値で、音量を上げれば順次、自動的に増強量は減少します。

SUBSONIC FILTER——サブソニック・フィルター

このスイッチは押して“ON”となり、上のLEDが点灯し、再び押すと手前に出てOFFとなります。サブソニック・フィルターは可聴帯域外の超低域17Hz以下を12dB/octという急峻な特性でカットし、超低域ノイズの可聴帯域内への悪影響を取り除くことができます。レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動によりウーファーがゆれたり、ノイズ（モーター・ゴロなど）がある場合に、このフィルターは大変有効です。

HIGH FILTER——ハイカット・フィルター

高音雑音除去用フィルターで、8kHz以上を12dB/octでカットします。フィルター回路をONにしますと上のLEDが点灯します。

TAPE REC——録音出力ON/OFFスイッチ

リア・パネル \square テープレコーダー接続端子のレコーディング出力端子“REC”及びフロント・サブパネル \square “REC”の出力をON/OFFするためのスイッチで、押し込んだ状態でONとなり、上のLEDが点灯し、再び押すと手前に出てOFFとなります。したがってテープレコーダーでプログラム・ソースを録音するときには、このスイッチをONにしてください。TAPE COPYスイッチでテープレコーダー相互間のコピーをするときには無関係です。



TAPE FRONT AUX FRONT

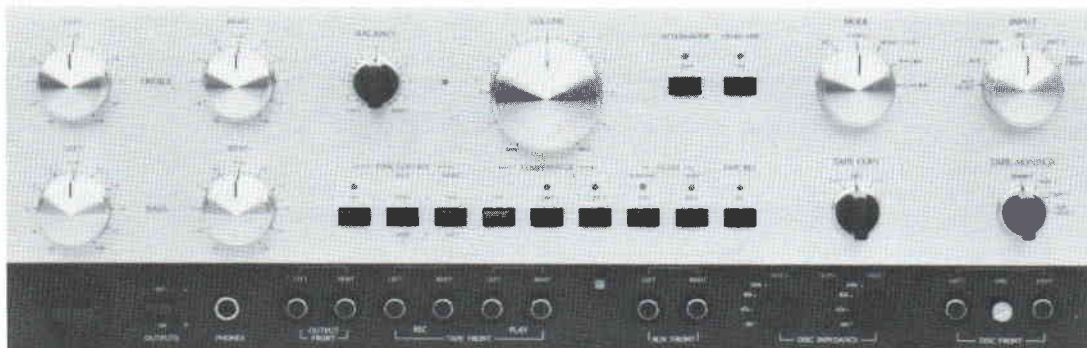
TAPE FRONT——フロント側・テープレコーダー再生/ 録音端子

本機の前面からテープレコーダーを接続して再生、録音をすることができる大変便利な入出力端子です。

PLAY端子にはテープレコーダーのLINE OUTを接続し、REC端子にはLINE INの接続コードをつないでください。プログラム・ソースのレコーディングをするときは、 \square TAPE RECスイッチを押してONにしておいてください。REC端子の出力は本機のVOLUME、BASS、TREBLE、COMPENSATORなどには一切関係しませんので、録音レベルはテープレコーダー側で調整してください。

AUX FRONT——フロント側・予備入力端子

チューナーとか、テープレコーダーのLINE OUTを接続するためのフロント側の予備入力端子です。





LOW LEVEL INPUTS

DISC 1 / DISC 2——レコード・プレーヤー入力端子

“DISC 1”と“DISC 2”の入力端子には、2台のレコード・プレーヤー（2本のトーン・アーム）を接続することができます。フロント・パネル側にもう一系統の入力端子があります。

左端の GND 端子はアース接続端子で、レコード・プレーヤーの出力コードといっしょに出ているアース線を接続してください。なおアース接続についての“ご注意”が㊦のフロント側入力端子のところにあります。



HIGH LEVEL INPUTS

TUNER/AUX——チューナー/予備入力端子

“TUNER”へはチューナーの出力コードを接続してください。“AUX”は予備入力端子ですから、チューナーとか、テープレコーダーの LINE OUT を接続しますとテープ再生ができます。



TAPE 1 / TAPE 2

PLAY/REC——テープレコーダー再生/録音端子

TAPE 1, TAPE 2 それぞれにテープレコーダーを接続することができます。“PLAY”にはテープレコーダーの LINE OUT を接続し、“REC”には LINE IN の接続コードをつないでください。フロント・パネル側にもう一系統の再生/録音端子があります。

プログラム・ソースのレコーディングをするときには、**㊦** TAPE REC スイッチを押して ON にしておいてください。REC 端子の出力は本機の VOLUME, BASS, TREBLE, COMPENSATOR などには一切関係しませんので、録音レベルはテープレコーダー側で調整してください。



OUTPUT 1 / OUTPUT 2

OUTPUT——出力端子

二系統の出力端子がこのリア・パネル側に、もう一系統がフロント・パネル側にあります。パワー・アンプを切り

ご使用方法

替えて使うときなどに便利です。通常はどちらか一系統の出力をパワー・アンプへ入力します。



SWITCHED/UNSWITCHED

SWITCHED——電源スイッチ連動コンセント

本機と接続する他の機器の電源をこのコンセントからとりますと、フロント・パネルの電源スイッチによってON/OFFを一齐におこなえます。接続する機器の消費電力の合計が400Wを越えないように注意してください。

UNSWITCHED——電源スイッチに連動しないコンセント

本機の電源コードがACコンセントに接続されている場合、電源スイッチのON/OFFに関係なく、他の機器への電源を供給することができます。接続する機器の消費電力の合計が200Wを越えないように注意してください。



VOLTAGE SELECTOR PLUG POWER CORD RECEPTACLE FUSE

電源電圧切替プラグ

プラグの矢印が本機へ供給する電源電圧を示しております。もし電圧の異なる地域で使う場合は、3ページの“電源電圧の切り替えについて”を参照してプラグを差し替えてください。

AC電源コード受口

本機へ供給するAC電源の受口です。付属の電源コードを差し込んでください。

ヒューズ

AC電源一次側に入っているヒューズです。“電源ヒューズの交換”については3ページを参照してください。

■レコードをお楽しみになる場合

レコード・プレーヤーの出力コードがLEFT(左), RIGHT(右)共に正しく入力端子DISC 1(またはDISC 2, DISC FRONT)に接続され、アース線もGND端子につながっていることを確認の上、つぎの手順で操作をしてください。

①DISC 1やDISC FRONTに接続したレコード・プレーヤーのカートリッジがMM型やIM型の高出力カートリッジの場合は、入力インピーダンス・セレクターで負荷インピーダンスを選択してください。通常は47kΩが標準です。

②[D]の入力セレクターをDISC 1(またはDISC 2, DISC FRONT)のポジションにしてください。また、カートリッジがMC型の際には、HEAD AMPスイッチを押してONにしてください。

③[A]のOUTPUTSスイッチがON、[E]TAPE MONITORスイッチがSOURCEになっていることを確認してください。

④VOLUMEを上げていきますと演奏が聞こえてきます。BASS/TREBLEのトーン・コントロールやCOMPENSATORで音の調整をしてください。

⑤レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動によりウーファーがゆれたり、ノイズ(モーター・ゴロなど)がある場合には、SUBSONIC FILTERを入れてください。

■チューナーで放送を聞く場合

チューナーの出力コードがL, R正しく[J]のTUNER端子に接続されていることを確認してください。レコード再生のときと同じ要領でOUTPUTSスイッチやTAPE MONITORスイッチの確認をして[D]の入力セレクターをTUNERにします。あとはVOLUMEを上げれば聞こえます。

チューナーのときの音量がレコード再生のときよりもVOLUMEの位置が同じで、違うときはチューナーのレベル・コントロールで音量を合わせておくと使い易くなります。

■テープレコーダーで録音、再生をする場合

リア・パネル㊦またはフロント・パネル㊧の REC 端子とテープレコーダーのLINE IN端子、PLAY端子とLINE OUT端子が正しく接続されていることを確認してください。

1. 再生（プレーバック）

フロント・パネル㊧のTAPE MONITOR スイッチで“TAPE 1”、“TAPE 2”またはTAPE FRONTの選択をしてください。㊨入力セクターがどの位置にあっても選択すればテープを聞くことができます。TAPE MONITOR スイッチを“SOURCE”にすれば、再び入力セクターで選択しているプログラム・ソースに戻ります。

2. 録音（レコーディング）

レコーディングをする場合はつぎの手順で行なってください。

- ①プログラム・ソースを選び、スピーカーから音を出して確認しておいてください。
- ②フロント・パネル㊧のTAPE REC スイッチを“ON”にしてください。
- ③テープレコーダーを録音状態にすればスピーカーから出ている音が録音されます。
- ④本機のVOLUME, BASS/TREBLE, COMPENSATORなどは録音される音には関係しませんのでボリュームを下げて静かに録音をすることもできます。録音レベルはテープレコーダー側で調整してください。
- ⑤TAPE MONITOR スイッチをテープレコーダーに合わせて切り替えますと、録音しながら、録音されたテープのモニターができます。
- ⑥3台のテープレコーダーでの同時録音も可能です。

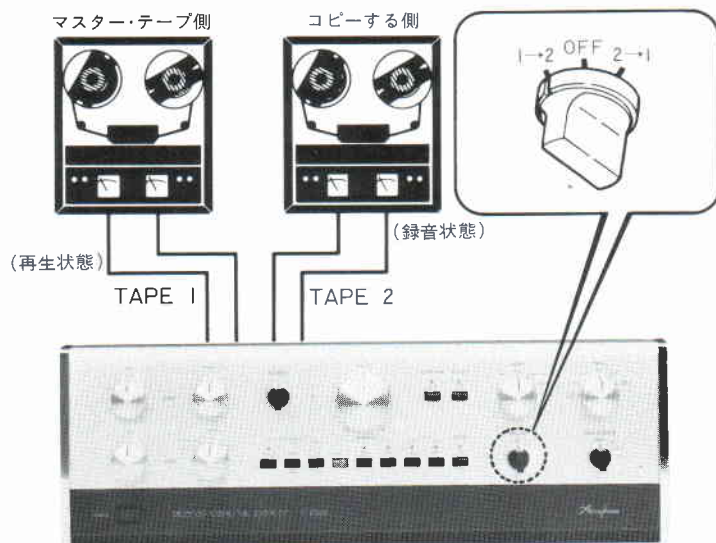
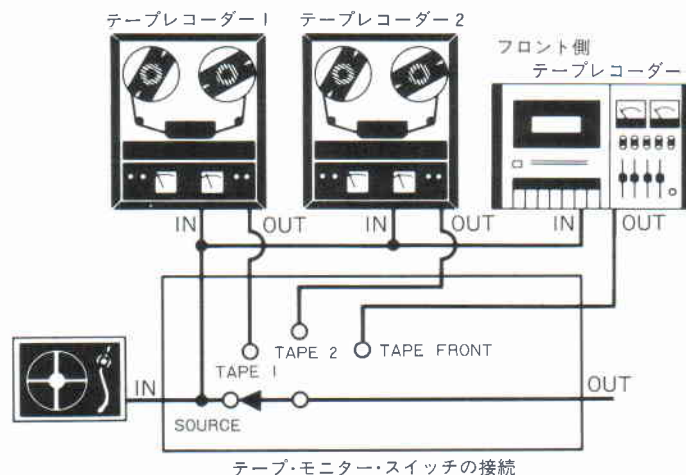
3. コピーのしかた

本機には TAPE COPY スイッチがついていますので、レコードや放送を聞きながら、まったく独立してテープのコピーができます。テープのコピーを作るときは次の手順で行なってください。

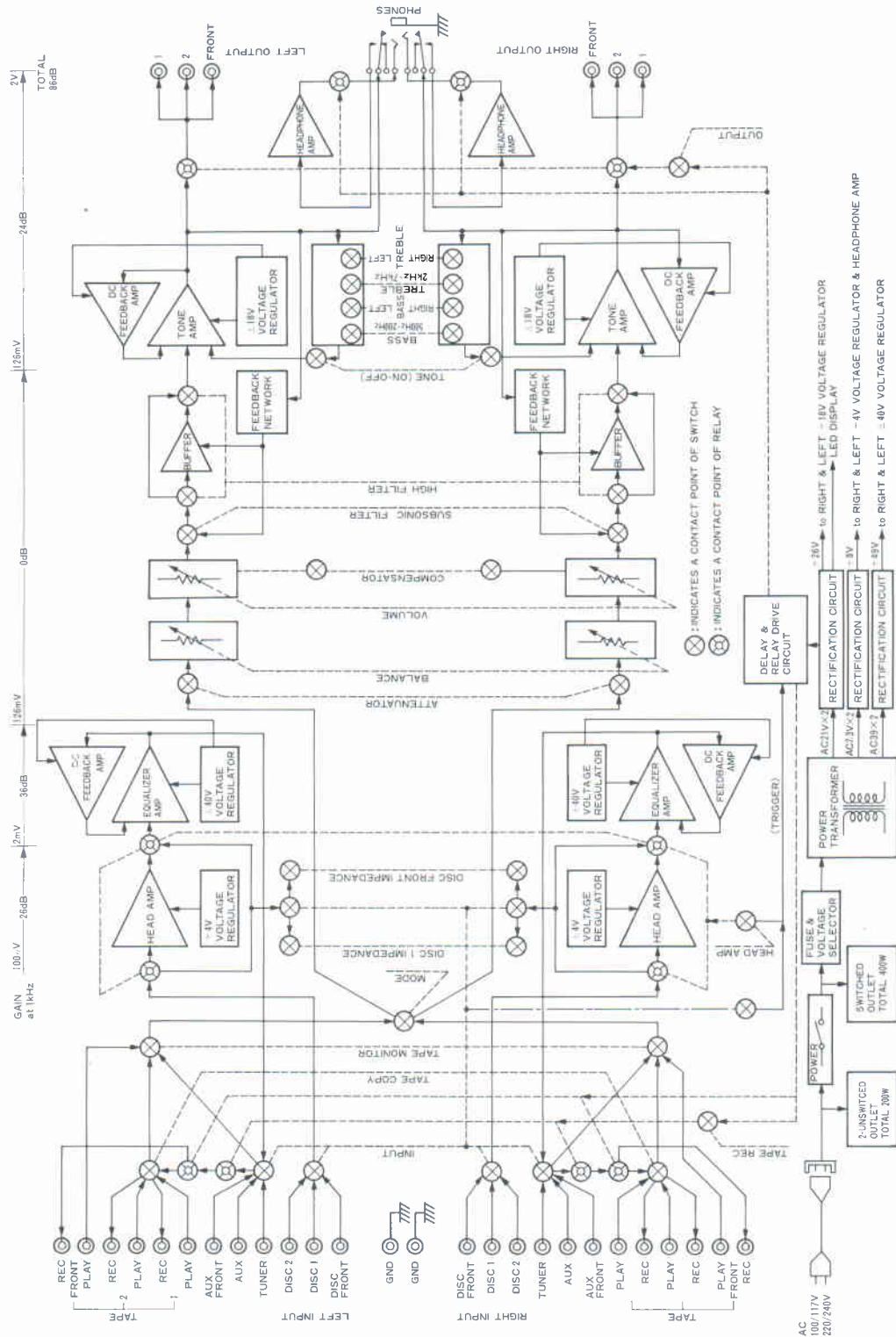
- ①リア・パネル㊦の“TAPE 1”、“TAPE 2”に正しくテープレコーダーを接続してください。
- ②TAPE 1をマスターとしてTAPE 2側でコピーする場合は、フロント・パネル㊧のTAPE COPY スイッチを“1→2”にセットします。逆のときは“2→1”にセッ

トしてください。

- ③マスター側のテープレコーダーを再生状態、コピー側のテープレコーダーを録音状態にすればコピーができます。
- ④TAPE 1→TAPE 2でコピーをしている場合は、TAPE MONITOR スイッチを“TAPE 1”にしますとマスター・テープの音が、“TAPE 2”にしますとコピーされたテープの音が聞けます。TAPE 2→TAPE 1のときは逆になります。
- ⑤コピーが進行しているときでも、TAPE MONITOR スイッチを“SOURCE”にすればコピーとは無関係にレコードやチューナーを聞くことができます。このときにDISCからTUNERへ切り替えたりしたときのミューティング回路の動作による音切れはコピー中のテープには一切関係しません。



ブロック・ダイアグラム



保証特性

周波数特性 (新IHF)

ハイレベル入力：20-20,000Hz +0, -0.2dB 以内
 ディスク入力：20-20,000Hz ±0.2dB 以内

全高調波ひずみ率 (新IHF)

0.005%以下 20-20,000Hz (すべての入力端子にて)

入力感度・入力インピーダンス

入力端子	入力感度		入力インピーダンス
	定格出力時	新IHF (出力0.5V)	
DISC: HEAD AMP; OFF	2.0mV	0.5mV	DISC1, DISC FRONT: 100, 47k, 82k, 150kΩ DISC2: 47kΩ 100Ω
DISC: HEAD AMP; ON	0.1mV	0.025mV	
TUNER, AUX, TAPE PLAY	126mV	31.5mV	

定格出力・出力インピーダンス

OUTPUT: 2.0V 2Ω
 TAPE REC: 126mV 200Ω (DISC 入力時)

ヘッドホン端子

出力インピーダンス: 0.3Ω
 出力 (8Ω 負荷): 0.25W (1kHz ひずみ率 0.01%)

S/N・入力換算雑音

入力端子	定格入力, 入力ショート, A 補正		新IHF
TUNER, AUX, TAPE PLAY	110dB	-128dBV	88dB
DISC: HEAD AMP; OFF	85dB	-139dBV	82dB
DISC: HEAD AMP; ON	72dB	-152dBV	74dB

最大出力レベル

10V ひずみ率 0.005%以下 20-20,000Hz

ディスク最大入力

HEAD AMP OFF: 400mVrms 1kHz,
 ひずみ率 0.005%以下
 HEAD AMP ON: 20mVrms 1kHz,
 ひずみ率 0.005%以下

最小負荷インピーダンス

OUTPUT: 1kΩ
 TAPE REC: 10kΩ

ゲイン

TUNER・AUX・TAPE PLAY より
 TAPE REC: 0dB
 OUTPUT: 24dB
 DISC (HEAD AMP: OFF) より
 TAPE REC: 36dB
 OUTPUT: 60dB
 (HEAD AMP: ON時は+26dB)

トーン・コントロール

11接点ロータリー・スイッチによるステップ式
 ターンオーバー・ポイント 低音: 200Hz, 500Hz
 高音: 2kHz, 7kHz
 低音 500Hz: ±10dB(100Hzにて) 2dB ステップ
 200Hz: ±10dB (35Hzにて) 2dB ステップ
 高音 2kHz: ±10dB(10kHzにて) 2dB ステップ
 7kHz: ±10dB(35kHzにて) 2dB ステップ

ラウドネス・コンペンセーター

COMP 1: +3dB (100Hz)
 COMP 2: +10dB (100Hz) +5dB (20kHz)
 (VOLUME CONTROL -30dBにて)

フィルター

サブソニック・フィルター: 17Hz, -12dB/oct
 ハイ・フィルター: 8kHz, -12dB/oct

アッテネーター

-20dB

使用半導体

102Tr, 29FET, 11IC, 50Di

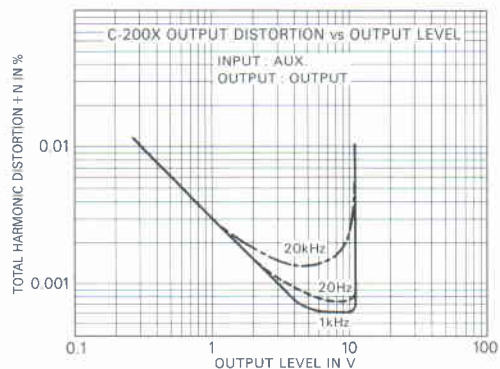
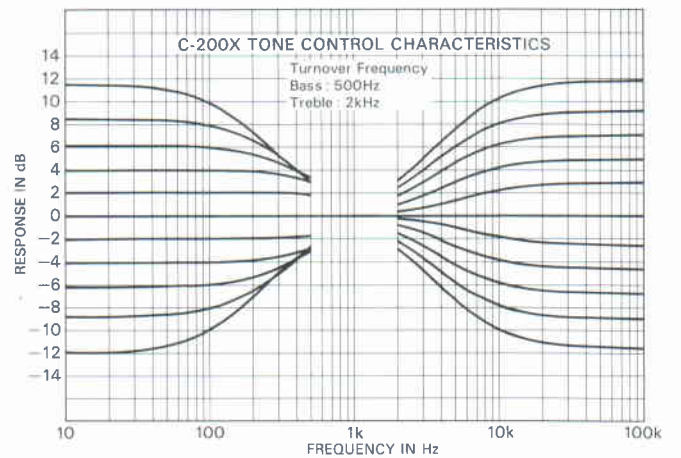
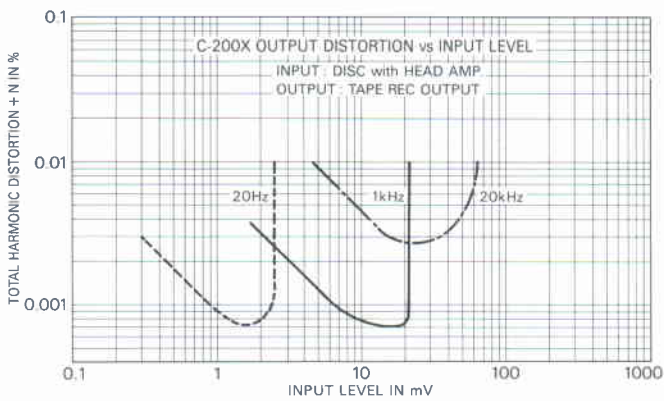
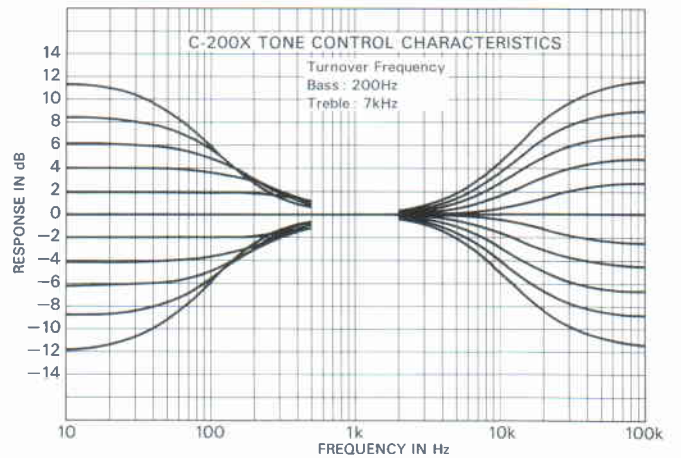
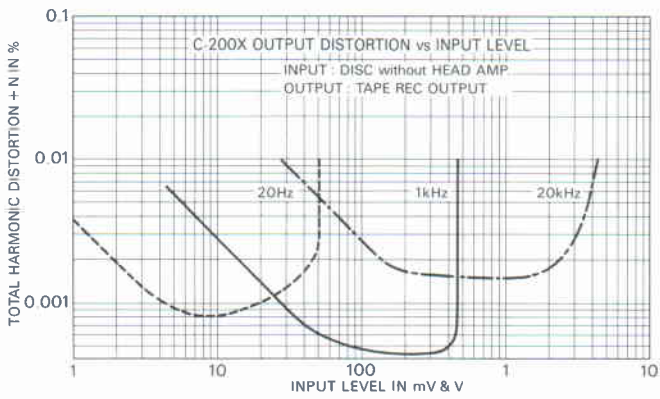
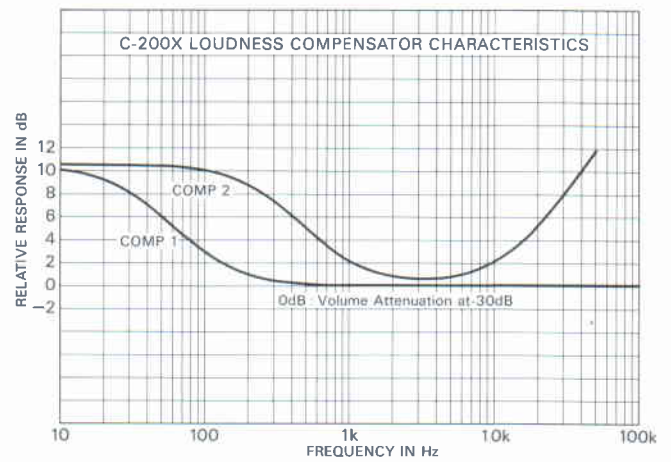
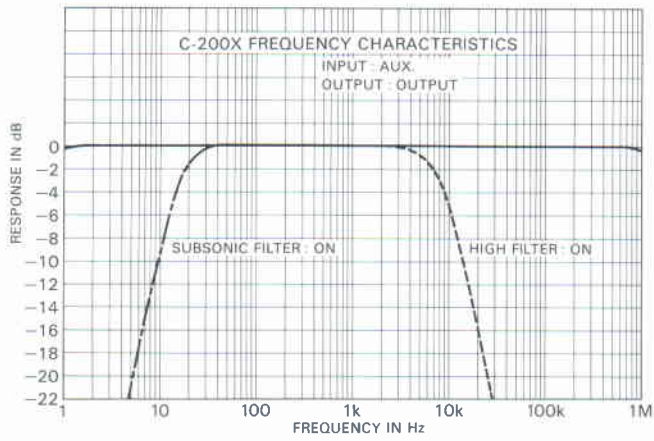
電源及び消費電力

100V, 117V, 220V, 240V 50/60Hz, 80W

寸法・重量

幅445mm×高さ160mm (脚含む)×奥行373mm
 13.4kg

特性グラフ





ACCUPHASE LABORATORY INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市緑区新石川2-14-10

〒227 TEL(045)901-2771(代表)